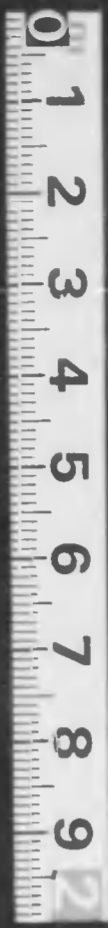




週寫眞報

編輯局報情
三月二日 第七百七十一號



物が乏しいのが
 生活がきびしいのが
 日本人わたしたちに
 それほど苦痛だらうか
 大君に仕へまつると
 御國を愛すと
 生活の中に敵撃滅を營む
 それだけで
 日本人わたしたちはこよなく豊かに幸多いのだ

必勝に驀進する 第八十四回帝國議會



國內は勿論、大東亞共榮圈更に全世界の注目を浴びて一月二十一日再會せられた第八十四回帝國議會の劈頭、東條内閣總理大臣は演説を行ひ、現下における戦局の實相と、これに對處すべき政府の必勝攻勢の内外施策を闡明し、一億國民に一段の決意を促した。殊に戦局に關しては、敵の反攻はいよいよ熾烈を極め、その重大性は論を俟たないが、戦争の動向に漸く焦躁不安を感じつつある敵が、犠牲を顧みない無謀な反攻を繰返す好機を捉へて、その徹底撃滅を圖ることを強調し、必勝の要件としては戦力、殊に航空戦力の飛躍的増強、海陸輸送力の確保、食糧の確保につき、あらゆる措置を講じて萬全を期する旨を明らかにされた。

また、戦争は結局敵國國民の意志と意志との闘ひであり一億國民の胸奥に眠うつ玉碎魂の發揮されるころ、最後の勝利は必ず我等が頭上に在りと斷ぜられ、さらに結果なつた大東亞各國及び盟邦獨伊と共に、決戦の第三年を斷乎勝ち抜く定平たる決意を表明せられた。

守り抜かん南の基地

空軍に敵をり見の具備しぞも来てけつやす必
……にらぐしつてし預買地基地を空めらやけ明は



ラバウル空戦の教訓

わが重要據點、ラバウルを繞る日米の航空決戦は、新年に入るとともにいよ／＼苛烈の度を加へ、今後いよいよ熾烈化するものと見ねばならぬ。

さて、敵のラバウル爆撃強化に伴ふ最近のソロモン戦局は

一、敵機の來襲は、昨年末は隔日であつたが、新年ともにも殆んど連日となつた。即ち、今年一月一日から同十七日までの半月間に殆んど連日來襲、機数は實に千二十八機に上つた。

二、彼我航空決戦の距離が一時間以内に對峙することになつた。

即ち、ラバウルに對する敵の侵襲基地は、ブーゲンビル島トロキナ、ニューギニア島のラエ、サラモア等、沿岸各地、トロンリアンド島、グッドイナフ島、ニューブリテン島マーカス、グロースター兩岬等、戦間機が自由に活躍できる紙一重の距離にせばまつた。

一、一回の來襲機数がとみに増加して、『大舉爆撃』となつた。



戦ひにあけ戦ひにくれる基地の生活は、炊爨の煙さへうかとはたてられない。撮影 瀨口海軍報道班員

闘魂を振ひ起して、毎戦偉勳を樹てゐる事實は特筆されねばならない。そしてまたその敢闘精神もさることであるが、その空戦技術にいたつては人機一體、正に人神の極致ともいふべく、十七日の如きは來襲敵機約二百機の中、百二機を撃墜してゐるが、そのうち八十七機を撃墜したのは實に航空部隊であり、しかもわが方の損害は一機もないといふ状況であつて、彼我技術の段違ひを如實に顯現したのであつた。

このやうに、わが第一線將兵はその必勝の信念においてその技術において、全く敵を壓してゐるのであるが、なほかつ形勢的な勝利を収めることのできないこの戦局の實相を前にして、われ／＼はまさ／＼と空戦の原理を思ひ出す。われに敵に匹敵する量さへあれば、その戦果の如何なるものかは、こゝに多言するを要しないであらう。

とすれば一體、われ／＼はどれだけの飛行機を送り、そして送つたらいいのか！

これについて、昨年夏以來ソロモン方面の作戦に直接たづさはつて、最近歸還したばかりの〇〇參謀は

『決して敵と同數、あるひはこれに近い飛行機がいる

即ち、七日には二百三十四機、十七日には二百機と昨年十一月二日の二百數十機以來杜絶したかたちの大舉來襲が半月の間に二回に上つた。

一、護衛戦闘機が急激に増加した。

即ち、従來の敵來襲機中、戦闘機と爆撃機との比率は、爆撃機が断然多かつたが、最近では双方殆んど同數、それが十四日の如きは、戦闘機二、爆撃機一といふ逆の比率を示した。

二、イギリス戦闘機が初登場した。

即ち九日の來襲敵機中にイギリスの戦闘機スピットファイアーが出現した。これは、昨年三月ポートダーウィン空襲の際に挑戦したことがあつたが、この方面では初めて登場したもので、米英聯合作戦の開始を示唆する。

などによつて特徴づけられるが、これに對して、わが海軍航空部隊、海上部隊ならびに地上部隊が奮勇よくこれを迎撃して敢闘を續け、わが戦果が來襲敵機數の三分の一から二分の一撃墜と、遂次上昇カーブを描き、敵に與へた損害程度もまた撃破少く、撃墜一本になつてゐるとは注目し値ひする。

特にわが航空部隊が必死必殺、たぎり立つ海軍傳統の

とはいはぬ。過去一年半に、わが方が持つてゐた飛行機數の二倍の數さへあれば、必ず敵の侵襲を喰ひとめ、三倍になれば、斷乎進んで敵を撃滅し得る。斷じて勝つ。それが一刻おくれれば、苦しさは二倍三倍に加重してくるのだ。本當の意味での一機でも多くといふ言葉に、さらに一割も早くつけ加へて、私は心から叫びたい。それができれば、今こそ敵を徹底的に撃滅し得る絶好の時なのだ！

と語つてゐるが、この血の叫びを一體國民は夢にも忘れてはならない。これ程われ／＼の生産目標は、われ／＼の『もう一と頑張り』で達成されるほど、手近かなところにあるのであり、それがわれ／＼にできないはずは斷じてないのである。

敵も今や必死である。イギリス戦闘機や、缺點が多いためしはらく姿を演じてゐたマーチンB26双発爆撃機までも狩り出し、ありつたけの機數と、あらゆる機種を總動員して、この反攻を反復強化しようとしてゐるのである。われ／＼は今こそ、この苛烈な戦局の新様相を正視し、われ／＼の一擧手一投足が直ちにラバウルの決戦場に結いてゐる事實を深く銘記すべきである。

機體のそこ／＼にあいた弾痕が死闘の空戦を語る。しかも修理なればすぐに再び飛立つのだ

大本營海軍報道部



護鎮の辺北壁鉄

習真季冬軍東

陸軍航空隊



決勝の第三年を迎へ、短期決戦を焦る敵は或ひはラバウル攻略を叫び、或ひは中央侵攻路を口に、さらに本土空襲を敢て立てるなど、大の速吠に似たその總反攻計畫を宣傳これ努めてゐるのであるが、大東亞廣域の各地を守備する皇軍將兵は、ひたすら寄らば斬らんすの凛烈な士氣を以て、これに一大痛棒を加へようとしてゐる。

殊に南方のあわただしい戦雲をよそに、悠々北方鎮護の大任を擔ひ、日夜血の訓練に勵む關東軍の精銳こそ、大東亞各戦線に磐石の重みを加へるものといへる。

北滿の極寒なもの、氷雪と闘つて完勝の氣を練る關東軍の威容に接し、われらまた心からその健在を祈らう。

↑ たぎりたつ雲を仰へながら、出發前の訓練を聞く兵隊たち

□ 寒風を衝いて舞ひ上る戦闘機隊の勇姿

白煙々の峻峰を越えて雲々の細線は進む 左頁



大東亞戦争日誌

十二月

八日 ●大東亞戦争開始以來二

本軍 二十七万七千名
英軍 十二万二千名

十一日 ●中支那方面帝國陸軍部

飛行機隊 二十機(七機は二機)

十二日 ●支那方面帝國陸軍部

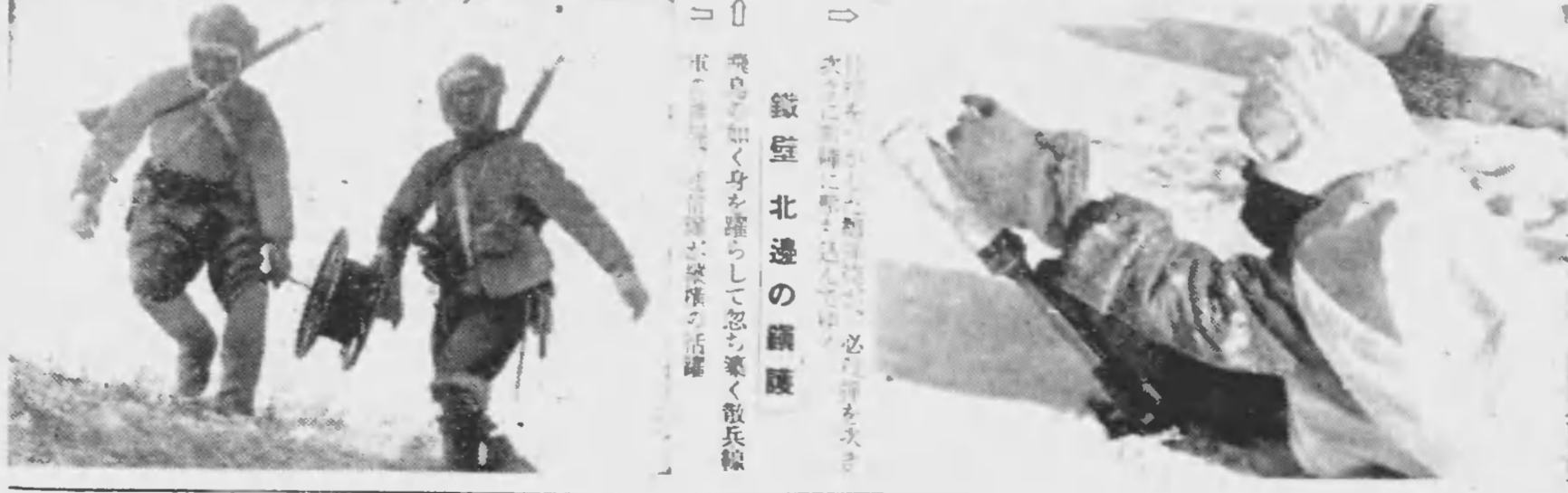
十六日 ●ビスマ方面帝國陸軍部

十七日 ●一、我軍は敵軍は十二

戦中より



自軍の身を包んだ陸軍部隊が通りぬける。背景には山々が見え、兵士たちは荷物や武器を運んでいる。地上には雪や霜が降り、寒気を感じさせる。



敵の如く身を隠して忍び寄り、敵兵線に突如襲撃を加える。兵士たちは慎重に前進し、周囲の状況を確認している。

交上または破壊 十七回
 (ロ) 我軍の損害 自爆未遂六
 二十日 ●カラワ島及びマキン島
 守備の帝國海軍陸隊は十一月二十
 一日以来三千の兵員を以て五万餘
 の敵上陸軍を激撃し、艦隊は沿岸の
 砲撃隊及び砲隊射撃に抗し、連
 日奮戦、我に敵情する大損害を興へ
 つ、敵の有力なる砲動部隊を誘引
 して友軍の海軍自爆に至る奇策を
 なし、十一月二十五日最後の突撃を
 敢行、全員玉砕せり
 指揮官は海軍少将柴崎憲次なり。な
 らば戦場において守備部隊に終始協力
 無難せし軍艦約一千五百名もまた全
 員玉砕せり
 二十一日 ●帝國海軍航空部隊は十
 二月二十一日午前、午後二回に亘
 りマカスカ岬附近の敵航空艦隊を激
 撃し、左の戦果を収めたり
 (イ) 敵に與へたる損害
 特殊輸送艦 二隻
 大型輸送艦 四隻乃至五隻
 巡洋艦 二隻
 上陸用母艦 二隻
 輸送艦 一隻
 小艇 一隻
 (ロ) 我軍の損害 自爆未遂五回
 (イ) 敵に與へたる損害
 特殊輸送艦 二隻
 魚雷艇 約三十隻
 上陸用母艦 一隻(自爆未遂)
 輸送艦 一隻(自爆未遂)
 小艇 一隻(自爆未遂)
 上陸用母艦 四艘以上
 輸送艦 多量
 二月二十二日未明、マカスカ岬附近
 の敵陣並に軍需品集積所を激撃し、
 砲撃し、マカスカ岬に大規模な火災
 を起さし、九ヶ所を炎上せしむる
 等、甚大なる損害を興へたり
 ●艦隊十二月二十一日の海軍航空部
 隊のマカスカ岬附近敵航空艦隊に對
 する第三次攻撃の戦果を左の通り訂
 正す
 追加

十二月十五日未明、敵航空艦隊
 のマカスカ岬に近接中なるを察見せ
 る帝國海軍航空部隊はこれをマカスカ
 岬沖海上において激撃、砲撃反復
 精鋭なる攻撃を加へて左の戦果を収
 めたり
 (一) 第一次攻撃(十五日未明)
 敵に與へたる損害
 大型輸送艦 一隻
 小型輸送艦 三隻
 上陸用母艦 三十隻以上
 大型巡洋艦 一隻(自爆未遂)
 小艇輸送艦 一隻(自爆未遂)
 上陸用母艦 一隻(自爆未遂)
 右輸送艦並に上陸用母艦はいづ
 れも上陸前にして兵員を降載しあ
 り
 (二) 第二次攻撃(十六日午後)
 我軍の損害 未遂三回
 敵に與へたる損害
 特殊輸送艦 二隻以上
 大型上陸用母艦 二隻以上
 上陸用母艦 多量(自爆未遂)
 輸送艦 多量(自爆未遂)
 右輸送艦並に上陸用母艦はいづ
 れも上陸前にして兵員を降載しあ
 り
 (三) 第三次攻撃(十七日早朝)
 我軍の損害 未遂三回
 敵に與へたる損害
 小型輸送艦 一隻
 海上トラフク 一隻
 大型上陸用母艦 四隻
 上陸用母艦 數隻
 小艇輸送艦 二隻(自爆未遂)
 海上トラフク 一隻(自爆未遂)
 大型上陸用母艦 二隻(自爆未遂)
 八回
 (四) 我軍の損害 未遂四回
 なほ十二月十六日には夜間攻撃を
 行ひ相當の損害を興へたるも、夜
 暗のため確證するに至らず
 三、帝國海軍航空部隊は十二月十七
 日早朝、ラバウルに來襲せる敵艦
 約四十機を激撃し、その十八機を
 撃墜せり
 我軍の損害 未遂二回
 十八日 ●帝國陸軍航空部隊は十
 二月十八日昆明飛行場を、同十九日
 雲南龍騰飛行場を攻撃し在地砲隊を
 掃蕩すると共に、挑戦し來れる敵機
 四機を撃墜し、次ぎの果敢
 を収めたり
 (一) 敵に與へたる損害
 撃墜 十五機(うち不備七機)

陣中一詞華

地雷原

小島忠明



生憎、只今出でゐない。昔は、
 (今)と云ふ言はずしてゐるのだから分
 らない。昔は、あの兵隊の言ひに、
 (今)と云ふ言はずしてゐるのだから分
 らない。昔は、あの兵隊の言ひに、

この一本のローソクの明を、
 許さぬ友の手つきのさきことと、
 大伴に傳へし身なり地雷原に

短歌

この一本のローソクの明を、
 許さぬ友の手つきのさきことと、
 大伴に傳へし身なり地雷原に

この一本のローソクの明を、
 許さぬ友の手つきのさきことと、
 大伴に傳へし身なり地雷原に

この一本のローソクの明を、
 許さぬ友の手つきのさきことと、
 大伴に傳へし身なり地雷原に

この一本のローソクの明を、
 許さぬ友の手つきのさきことと、
 大伴に傳へし身なり地雷原に

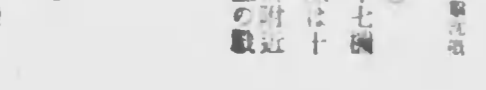
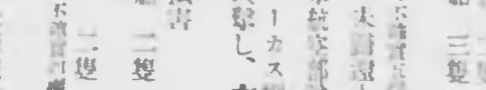
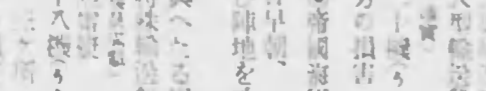
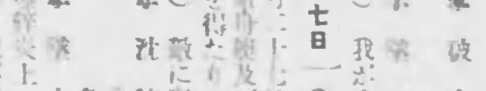
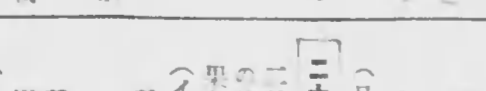
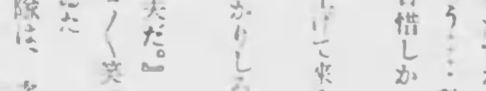
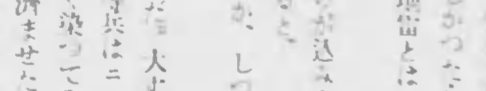
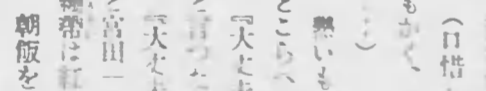
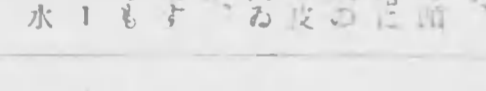
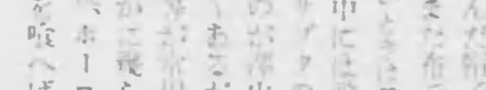
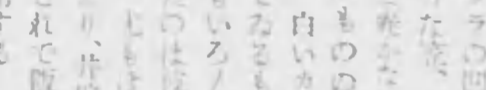
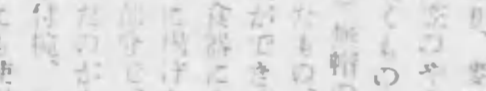
この一本のローソクの明を、
 許さぬ友の手つきのさきことと、
 大伴に傳へし身なり地雷原に

この一本のローソクの明を、
 許さぬ友の手つきのさきことと、
 大伴に傳へし身なり地雷原に

この一本のローソクの明を、
 許さぬ友の手つきのさきことと、
 大伴に傳へし身なり地雷原に

苦力の食事

奥才深井



この写真は、
 苦力で使われてゐる
 苦力です。苦力で使われてゐる
 苦力です。苦力で使われてゐる

苦力で使われてゐる
 苦力です。苦力で使われてゐる
 苦力です。苦力で使われてゐる

苦力で使われてゐる
 苦力です。苦力で使われてゐる
 苦力です。苦力で使われてゐる

苦力で使われてゐる
 苦力です。苦力で使われてゐる
 苦力です。苦力で使われてゐる

苦力で使われてゐる
 苦力です。苦力で使われてゐる
 苦力です。苦力で使われてゐる

苦力で使われてゐる
 苦力です。苦力で使われてゐる
 苦力です。苦力で使われてゐる



コレ、おろし
に消灯を
よほどは
いさん

電氣アイロン
をいそいで
ポクは早く
なるところ
きたいん

者取機オジラの國全
をし放けつ間時一が
四〇五年一とるめや
るまで機行飛の量

ト、十四てを時一が時
とるとたれ忘し消を電の
ト、ワロキニ一はに月ケ一
るまでが力電の時

動力としての電力がそれだけ減り、そのため貴重な石
炭も発電のためにかかればならなくなり、
わたしたちは早速電力を節約して、「飛行機や船をつ
くる方に献納させよう」

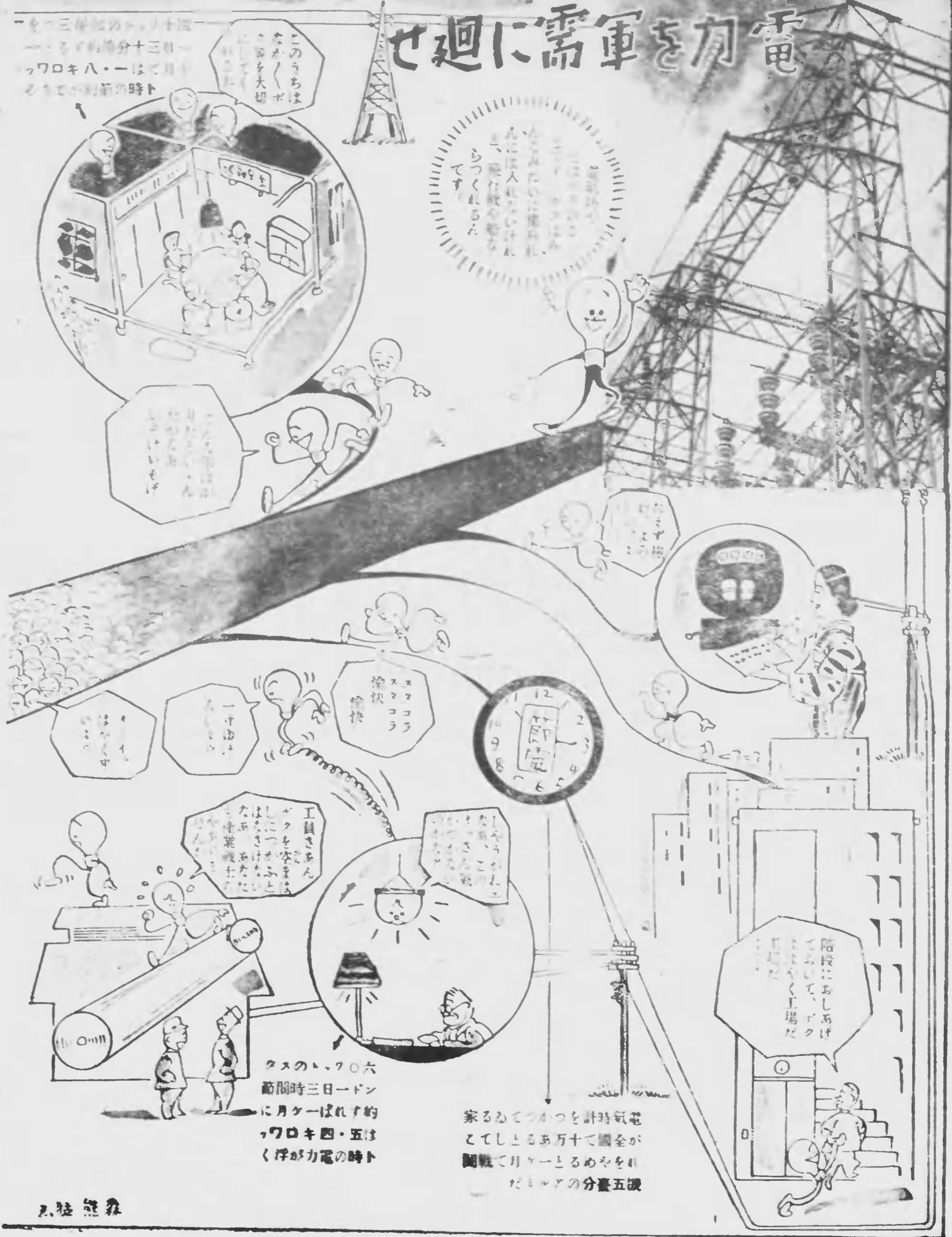
戦艦の門であり昔であるが、ニュームーンを造
るには、毎分、毎秒、毎分、毎秒の電力が必要な
ので、その電力の大きさにふと、
いけません。戦争は、
を節して、
また、
また、
また、

國をあげて航空機、船舶
の大増産に必死になつて
る時、その動力になる電力
を節約しなければならぬ
ことはいふまでもありませ
ん。殊に毎年、夏頃は、渇水
期といつて雨はふらず、發
電力がぐんと減る時です。
この時、いつもと同じに電
力をつかつてゐたのでは、
動力としての電力がそれだけ減り、そのため貴重な石
炭も発電のためにかかればならなくなり、
わたしたちは早速電力を節約して、「飛行機や船をつ
くる方に献納させよう」



十六歳までできるのです。節電はまづ自分の
家からはじめませう。一ヶ月一キロ時の節
約ならわけのないことです。
また工場でも、國民がせつせと節約して
おくれた電力は、たとへばワットの電力も
むだにせず、船や飛行機をつくる動力にあ
てまらう。

電カを軍需に週せ



このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に

このうち
なかくは
を大切
に



工業品の大生産地 静岡県 浜岡郡 品田町 品田製糸に山とつづまれている

藁工品も品兵器だ

荷造りといへば藁だ、藁だ、といふことは秋の常...
藁工品といへば、これまでも日本人の生活を...
助ける働きであり、そのほかにも、戦時下の...
と、一般に生活を支える人達と見られて、それ...
として、そのお宝持たされたものであつた。...

二月の常会

すのこに掛り、配置に就いたわかれ...
は、あつちる不自由を、困難を突破...
て突進しよう

- 一 新調、新規購入をやめ、手持品...
を使ふ工夫をし、最低生活で頑張り...
かう、物の節約を同僚とあつても、とり...
なほは子守り、給仕をせよとなるのだ
- 二 家の手入れ、堆肥の精込み、藁工...
品のためには、貯蓄の蓄えをあげよう。食糧...
を減らす、これからは、この藁工...
品の出荷を先決とす。食糧は、藁工...
品の出荷を先決とす。食糧は、藁工...
品の出荷を先決とす。食糧は、藁工...



この需要に應じて

くゆてれさ荷出んとどてれまこめつに取も山の安疏るれさ産生しどしど



取も山のスクーコぬらなてくになに鋼製製 〇
くゆてれさ荷出んとどてつなにか世おの
15



増くしら新下戦決も産も繩るいりに造荷の開疎 〇
だ面要需の品工藁たえ



藁工品も増産だ

静岡県磐田郡
久野村

↑ 孫はおばあさんに預けて藁工品の増産に製造機の手、藁工の村は活と生産をつづけてゐる

↓ 藁工品生産はどこまでも女の手でなすとげられてゐる。キョーのすさまじい組縛とともに三十餘家の製藁機からみるうちに東の山がきづかれてゆく

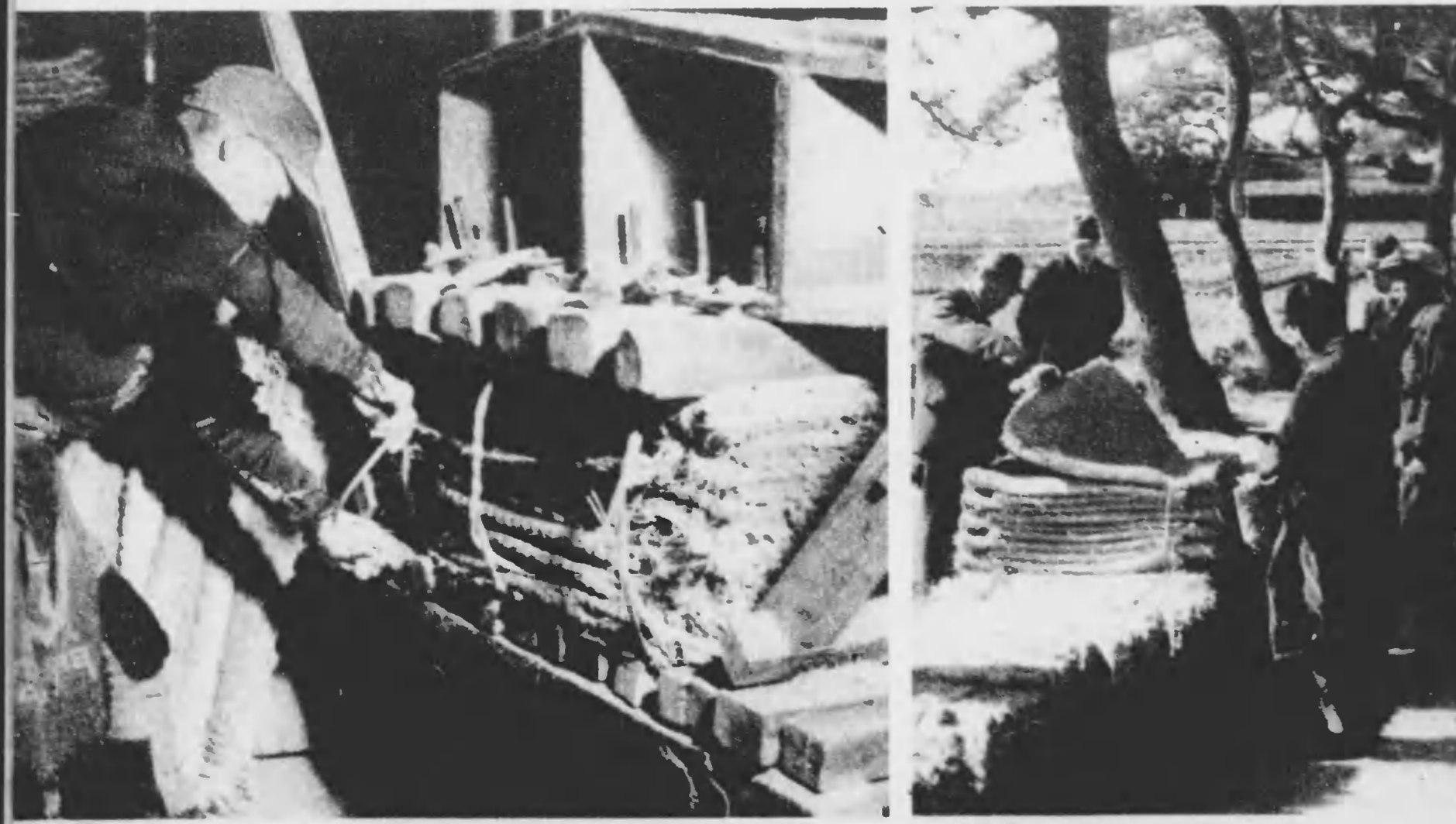
↑ 各編を浴びておみさんも組縛も藁機にまみれ、さいくれた手に血を流しながら産作りに懸命だ



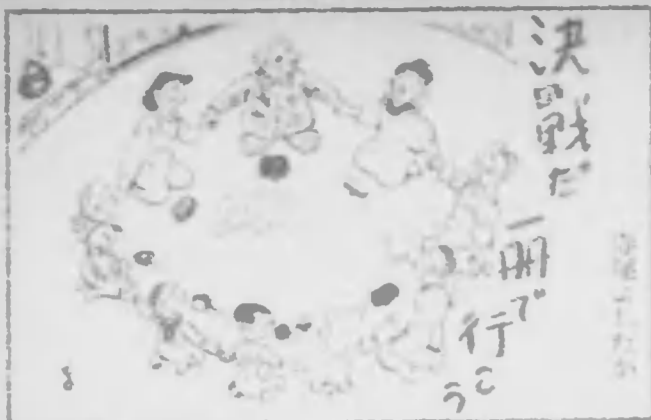
↑ 美しい東海道の松並木路を村の學童連も送の集荷に輪ヤカールを引いて

↓ 街道に並べられた藁の共同検査、製品の規格もよく揃つて生産は快調だ

↑ 水壓機でぐつと締められ、青竹で縛られ、農家の庭先から土間から乗荷された馬は、どしどしと出荷されてゆく。藁石を石炭を、肥料を石炭を、藁産の輸送路に



しな駄無に金貯



またしてもチンドンや

昭々たる

大東亞戦争漫画日記 お川進介

インドの番犬は野良犬ばかり

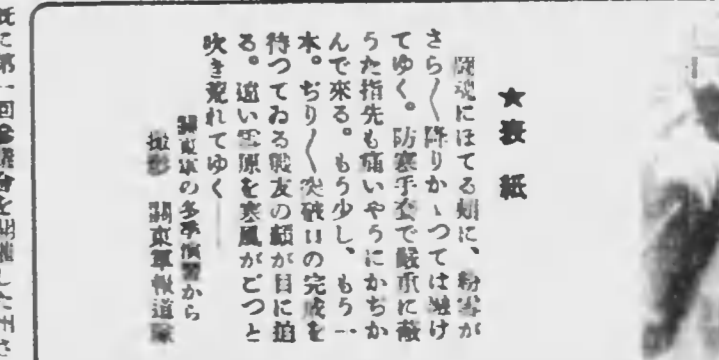
種みは果なし人的資源
一旦崩壊した方の報は、もはやなく
きまらんせ

通しい中国の再建
廣東と香港を結ぶ廣九線は、わが工兵隊、鐵道隊の日に夜をわく作事一
つて、僅か一月で復旧したが、廣通に併つて、沿線地区の復旧も容易と
る一方、甘肅、貴州、雲南などの物資が束まるものと見られ、中国
は大きい期待される。昨年十二月二十八日の開通式、撮影、南支那通信社



セレスも食糧増産へ
セレス島は南部が米の生産地で、これに自給できな
い北部セレスやバヌアなどに移出して来た。一昨年
決戦の年を迎へ、現地の食糧自給を目指し、南地
区に自給地を開墾する。撮影、日理通信社

水稲二期作などによる米穀増産〇ヶ年計画を推進するこ
ととなり、一般でも多く収穫しようとする地農民も必死に
上米の確保に努む。プギスの乙女
下米を絶望の食糧におさまったラジの主婦



★表紙

陣地にほてる朝に、粉雪が
さらけ降りかゝつては、塵
埃の手袋で、敵軍に
うたがひも、痛いやうにか
んで来る。もう少し、もう一
本で来る。突撃口の完成を
待つてゐる。敵友の顔が目に
映る。遠い空原を、風がごと
と吹き流れてゆく
撮影、關東軍報道隊

ビスマの日本語学校
東亞の指導者日本を知るには、先づ日
本語からと、會話の場ともいられるビスマ
マは、いま日本語熱に燃えさかっている。
首都ランゴラに、第三番目の日本語学
校まで開設されたほか、各地にも開校の
準備がすすめられてゐるが、それでも希
望者は人學しきれないほど多いのだ。
上 日本語勉強を辞めて帰る
下 先づアイウエオから學ぶ、竹信



共栄閣だより

政治參與に邁くスマトラ
東亞を東亞人の手にとりかへず、刻かしの
大東亞宣言に即つてスマトラにも昨年十一月
八日、原住民の政治參與は實施された。數者
に燃えたる各州では州參議員二百十名の選出
もをへ、既に第一回參議會を開催した州さへ
あり、原住民の感激のほども察せられよう
上 昨年十一月十日プギス市の祝賀市民
大會における國民學校児童の行進
下 原住民代表の祝賀演説

寫眞週報 昭和十九年二月十一日 第三千四百九十九号 (三) 印刷局 (東京) 第三千四百九十九号



決戦は
空でだ！

へ線前く多もて機一

手切丸弾

四千等一で四二枚一

二月十一日 出資回一十二 第
二月十一日 抽
同 五門・同五等 一枚 増
一枚 付一枚六 抽
常

高据別特、上のし出きお、局使郵、めり、十日枚五は手切丸左高の抽
ひる下、換引と書論金貯

印刷局印刷發行

本誌を回覧に
本誌を、購読や贈
りなどで、出
来るだけ有効に御
用下さい。
前線慰問にも
またお読みになつた
ら本誌を前線慰問に
送りませう。送附は
内地と同様で封封あ
るひは開封にして第
一、二種と明記すれば、
一紙一紙です。

本誌掲載の寫真中、機
影を名成ひは提供者
を特記してあるもの
の、は財団法人官報協
会の製作によるもの
又、海軍省承認の機
二、四二號です。

所 送 申	價 率	情 報 局	寫眞週報
全国各地官報 通報普及部 印刷局 寄店・購買店 新聞販賣店	一紙十錢 (送料二錢) 外埠郵送料は別 共一紙十九錢 ▲特大號の場合 金より差額を申 受けます。	昭和十九年二月 二日 印刷發行 東京 印刷局 本町一丁目一 番 東京 印刷局 大塚町一丁目 一 番	寫眞週報 (兼新聞類)

(列強版定-A4所定定期はさき大の寄金)